



## 詫中生の94%がいじめにNo!



先週の人権集会では、詫中生の意識アンケートの結果が報告されました。

アンケートの質問項目	Yes
○困ったときに相談できる友だちがいますか	34%
○友だちに勇気づけられたことがありますか	63%
○友だちを傷つけたことがありますか	45%

困ったときに相談できる友だちがいると心強いですね。3人に1人はそんな友だちがいることが分かりました。また、友だちの言葉に勇気づけられたり、逆に傷つけられたりしている詫中生の姿が見えてきました。そして「**どんな理由があってもいじめはいけない**」

と思っている人が94%いることも分かりました。もしいじめが起こりそうになっても、94%の人が味方です。残りの6%の人は、理由があればいじめられてもしょうがないと感じているのかもしれませんが、でも、いじめという手段はする方もされる方も深く傷つくだけで、何の得にもならないのです。人をいじめているときの自分の顔を想像してみてください。さわやかな顔をしていますか。晴れ晴れとした顔をしていますか。

上の写真のスクリーンにも出ていますが、「**詫間中学校は、みんなの力でいじめをなくしていくことができる**」学校です。そしてそれをさらに確かなものにするためには、100%の人が「いじめはNo!」と言えるようにしたいものです。これからも機会があるごとに、人権の大切さや人としての生き方を考えてください。

## 相手の立場で考えることの大切さ

「イソップ物語」を知っていますか。今から2500年ほど前から、ずっと言い伝えられてきた寓話や民話をまとめてできたものですが、その中に「少年たちとカエルたち」という話があります。こんな話です。

カエルがすむ池の近くで遊んでいた子どもたちが、池にカエルを見つけると、石を投げつけて遊び始めた。その石にあたって、ひどくけがを負ったカエルがたくさんでた。とうとうたまりかねた一匹のカエルが水の中から顔を出して叫んだ。「どうか、石を投げるのはやめてくれ。」すると子どもたちは、「僕たちは、石を投げて遊んでいるだけだよ。」と答えた。カエルは子どもたちに言った。「君たちには遊びでも、私たちには命の問題なのだ。」子どもたちは、言い返す言葉もなく池を去って行った。

この話から、私たちはどんなことを学び取れるでしょうか。ある書物には、「自分が悪気はなくても、軽い遊びのつもりでも、相手にとっては本当に苦しいことだってあるんだよ。立場が違えば、ほんの遊びのつもりでしたことも、相手にとっては命そのものを揺るがす問題になることもあるんだよ。力の強い者の遊びであればなおさらだよ。」と訴えているのだ、と書かれていました。

みなさんはどうでしょうか。自分の知らないうちに、自分のちょっとした言動で、相手を傷つけていることはないですか。もし、そういうことがあれば、悲しいことですね。自分の気持ちだけを一方的に押しつけ、相手の気持ちを考えようとしない時にこうしたことは起こります。悪気はなかったのに、という弁明は聞きません。そこには、相手の立場に立って考える、という視点が抜け落ちているからです。

相手の立場に立って考える、ということは、相手のことを自分と同じように大切に思うことです。この機会に、相手の立場に立って考える、ということを実践していきませんか。